

# 琉球大学 SDGs に関する教職員 アンケート調査報告書



University of the Ryukyus

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



琉球大学 SDGs 推進室

# 調査概要

## 1. 調査の目的

- SDGs 持続可能な開発目標への取組みについて、教職員の理解、考えや実践等のアンケートを行うことで、本学での SDGs 活動のチェックを行い、改善しながら SDGs 達成に貢献することを目的としています。

## 2. 調査方法

- 調査方法  
教職員を対象に、Microsoft Forms を活用した Web 形式によるアンケートを実施しました。

## 3. 回収結果

- 調査実施日  
2021 年 3 月 5 日～3 月 26 日
- 教員（常勤教員）  
回答者数：192 人
- 職員（常勤・非常勤）  
回答者数：240 人

### ●SDGs（持続可能な開発目標）とは・・・

すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGs の目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030 年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。

【出典：国際連合広報センター】

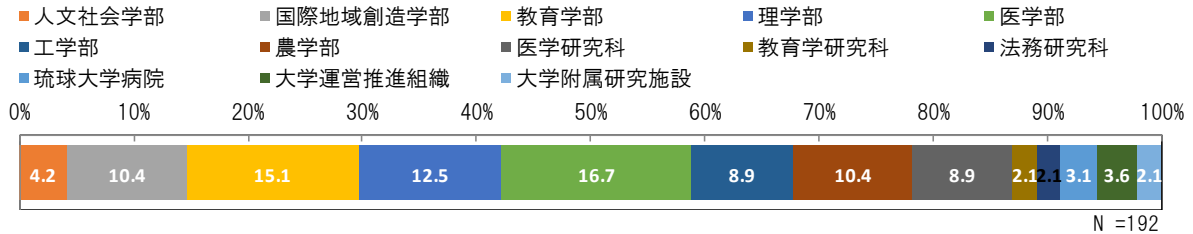
本学では、第 4 期中期目標・中期計画において、教育・研究等活動における SDGs の取組みの推進と島嶼地域の課題解決に向けた多様なステークホルダーとの連携・協働を掲げており、これらをスムーズに進めていくためには、何よりも教職員の SDGs に関する意識啓発（自分ごと化）と自発的アクションを促していくことが求められます。

# 回答者の基本属性

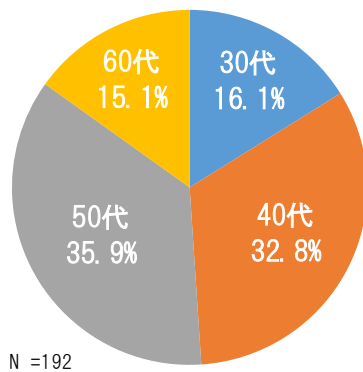
教員・職員

## 教員・職員について

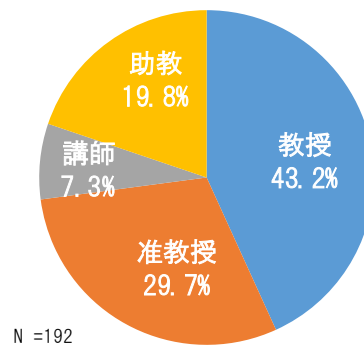
### 教員の属性



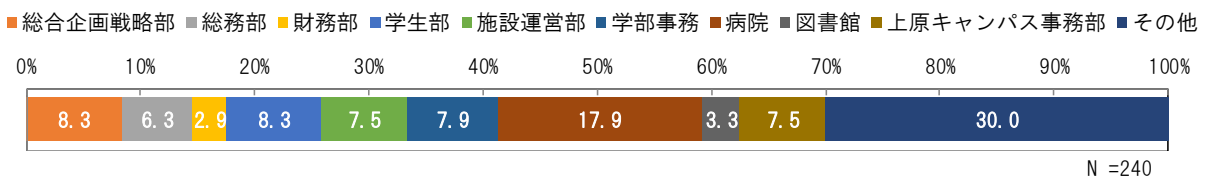
### 【年代】



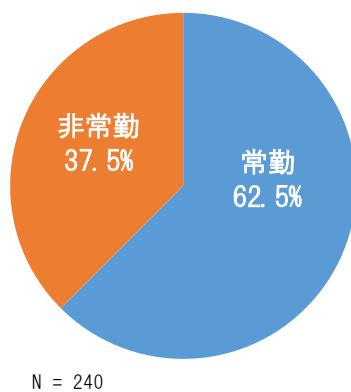
### 【職名】



### 職員の属性



### 【労働形態】



# SDGs の理解度

教員・職員

## SDGs の理解度は教員が 8 割と高い

### ● 設問 : SDGs (持続可能な開発目標) の理解度

SDGs の理解度は、教員が「理解し、アクションを行っている」が 40.1%に対し「職員」は 14.2%と、理解し実践している割合に開きがあります。教員は講義等で実践の機会があるものの、職員について実際の行動に結びつけられるような取組みを展開していくことが重要です。

- 内容を理解していて、関係するアクション（関係する業務、ボランティア活動など）を行っている
- 内容を理解しているが、特にアクションを行っていない
- 聞いたことはある、もしくはロゴなどを見たことはあるが内容までは理解していない
- 存在を知らない（今回のアンケートで初めて聞いた）

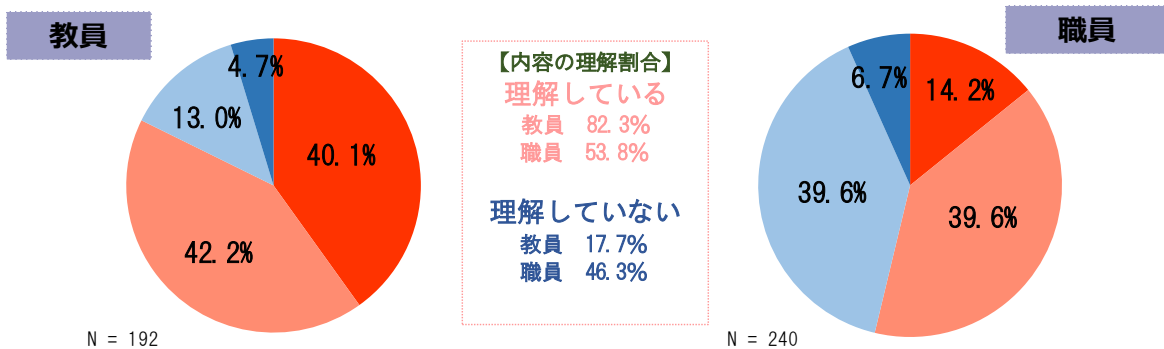


図1 SDGs (持続可能な開発目標) の理解度

「教員」のSDGsの理解度は、職位別では、「教授」の82.3%が内容の理解をしており、「准教授」は86.0%です。一方、「助教」では内容まで理解していない/存在を知らないが39.4%と他の職位より高くなっています。

所属部別では、「内容まで理解していない/存在を知らない」が医学部で46.9%、「医学研究科」で41.2%、「琉球大学病院」で33.4%と医学系での理解度が低くなっています。

講義等の機会や講義科目の内容などにより、SDGsと結びつきやすい講義の提供の差があると思われます。SDGsは、17のゴールと169のターゲットによって構成されていることから、SDGsへの理解が進むことで、既にSDGsの取組みを行っている「気づき」につながることも考えられます。

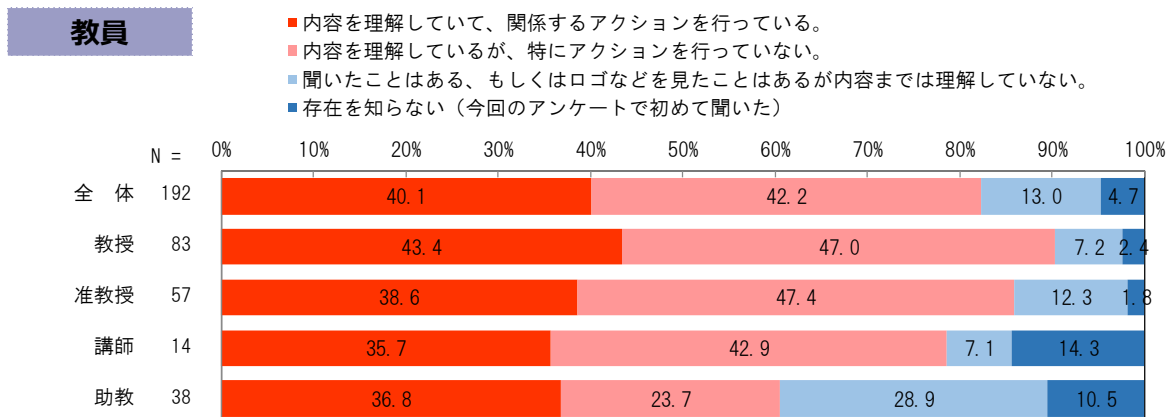


図2 教員・職位別 SDGs (持続可能な開発目標) の理解度

## 教員

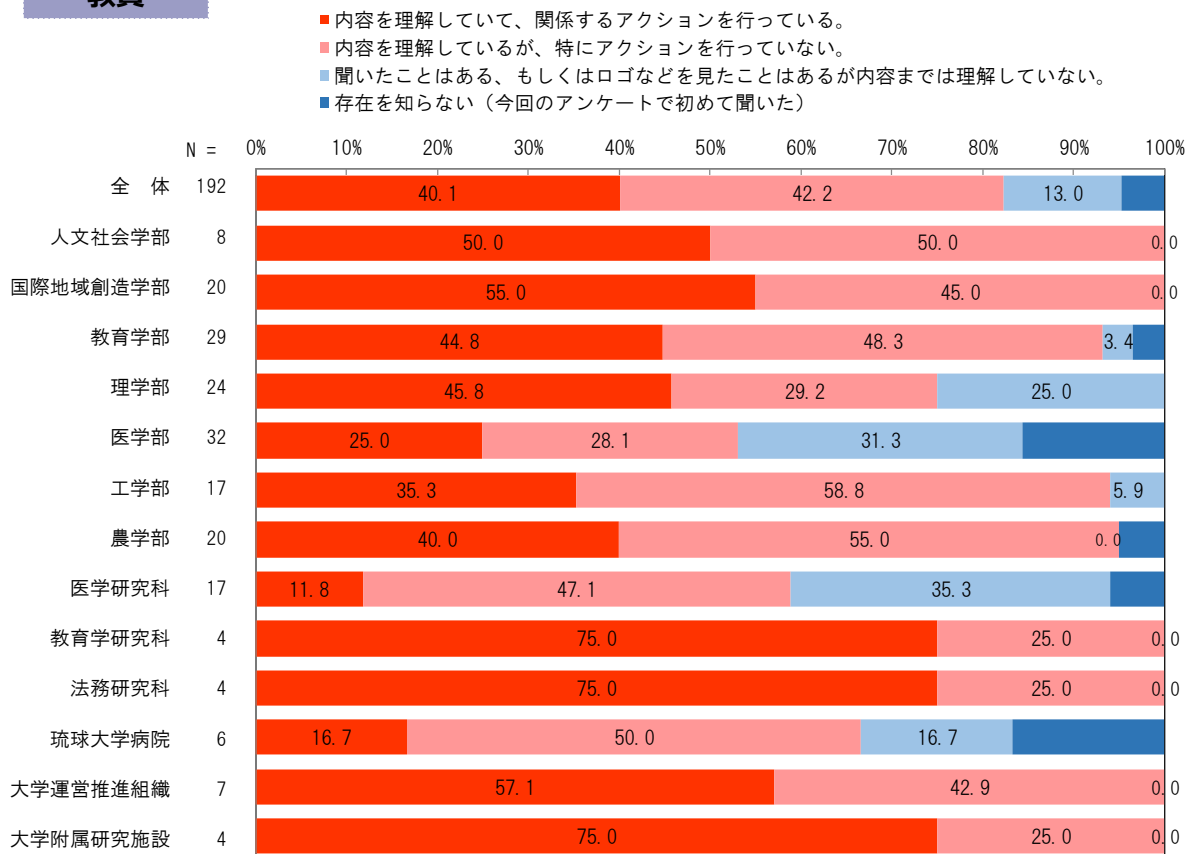


図3 教員・所属部別 SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

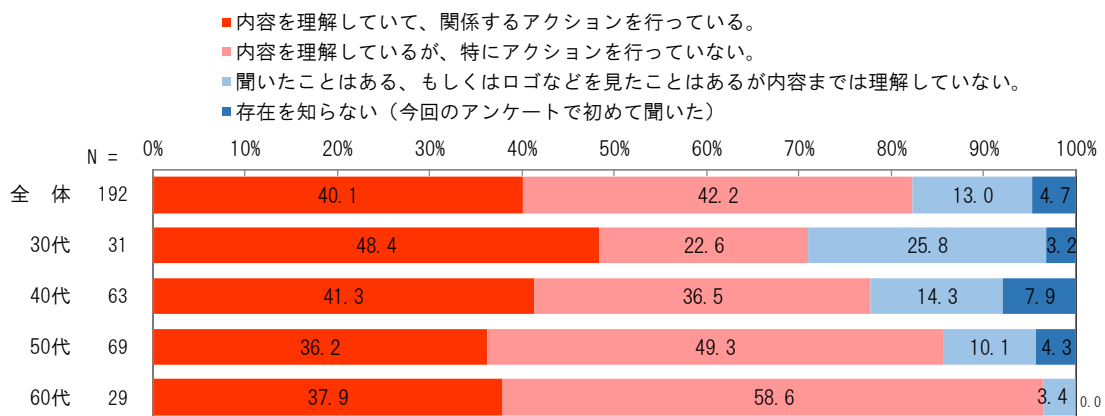


図4 教員・年代別 SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

「職員」の SDGs の理解度は、所属別で、「総合企画戦略部」が「内容を理解し、アクションを行っている」が 40.0%、次いで「施設運営部」と 33.3%と続きます。内容の理解は、「総合企画戦略部」が 90.0%、「総務部」が 80.0%と高い理解度です。

「内容まで理解していない/存在を知らない」が「病院」で 74.5%となっており、「学部事務」が 57.9%と続きます。

労働形態別では、「内容を理解し、アクションを行っている」が「常勤」は 57.3%、「非常勤」は 47.8%です。一方で、「内容まで理解していない/存在を知らない」が「非常勤」は 56.2%と半数以上が理解していないという状況です。

職員は、大学本部と学部等との間で理解度に差が見られるため、学部等の職員が理解を深められるよう、学部等の業務との関連付けた SDGs への意識啓発の取組が必要と思われます。

現場部門に向けたワークショップの実施等での機会なども重要と考えます。

## 職員

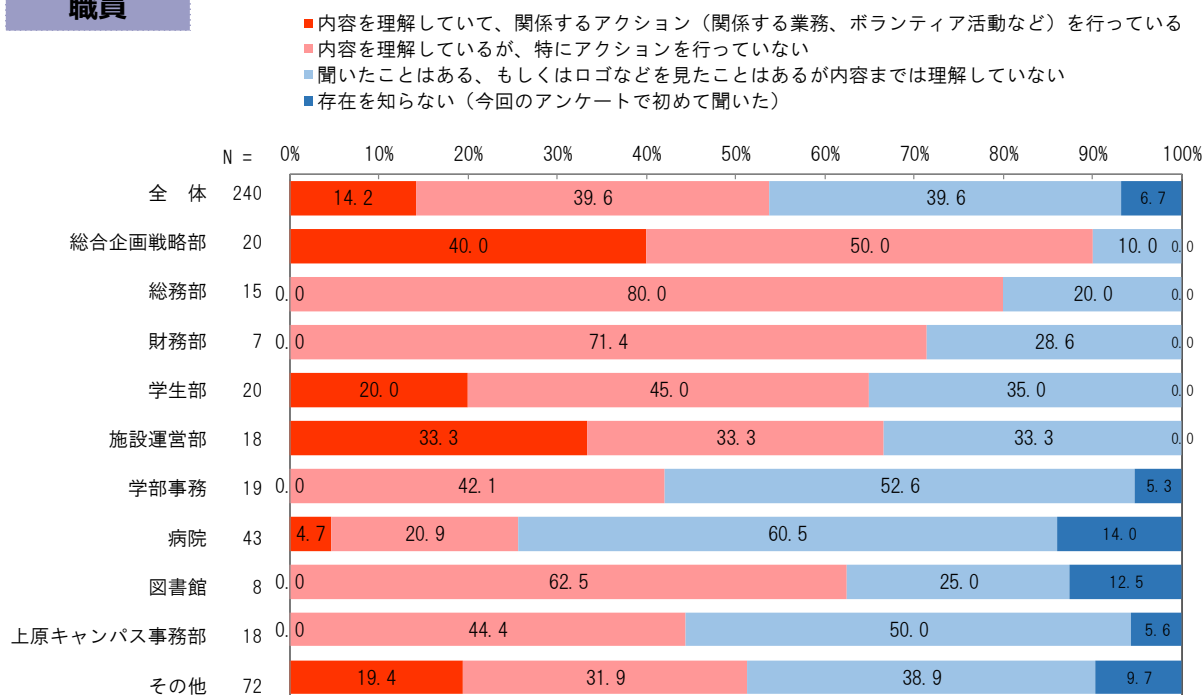


図5 職員・所属別 SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

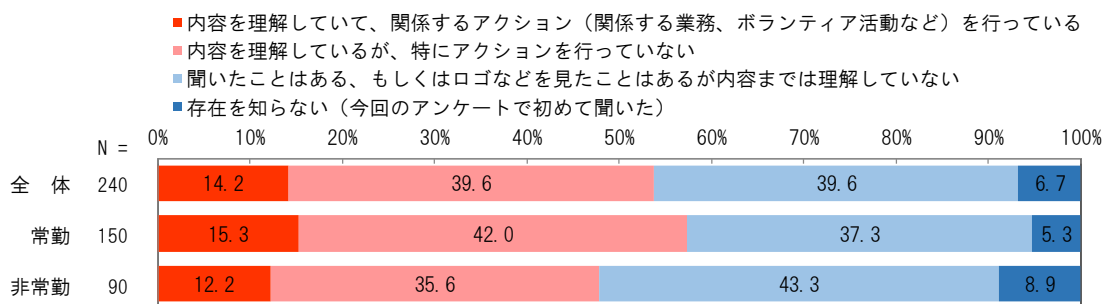


図6 職員・労働形態別 SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

● 設問：SDGsの理解度×業務または日常生活を通じた社会課題解決の取組み

教員では、「内容を理解し、アクションを行っている」の9割が業務や日常生活で取組みを実践しているが、「内容を理解していない」の7割は「未定」の回答です。職員についても「内容を理解し、アクションを行っている」の7割が業務や日常生活で取組みを実践しています。

全体として「未定」の回答割合が高く、「未定」の回答者の理由について今後深堀し、アクションに繋がる示唆が得られるFDやSD活動が必要です。

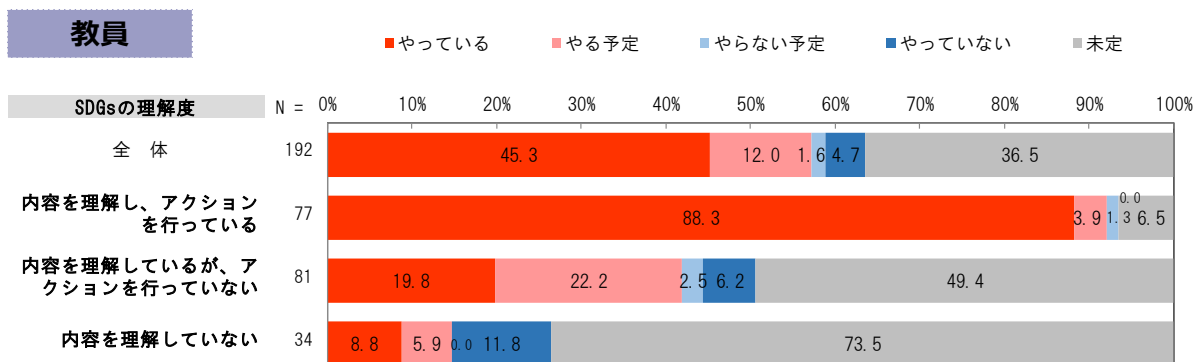


図7 教員・業務/日常の取組状況×SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

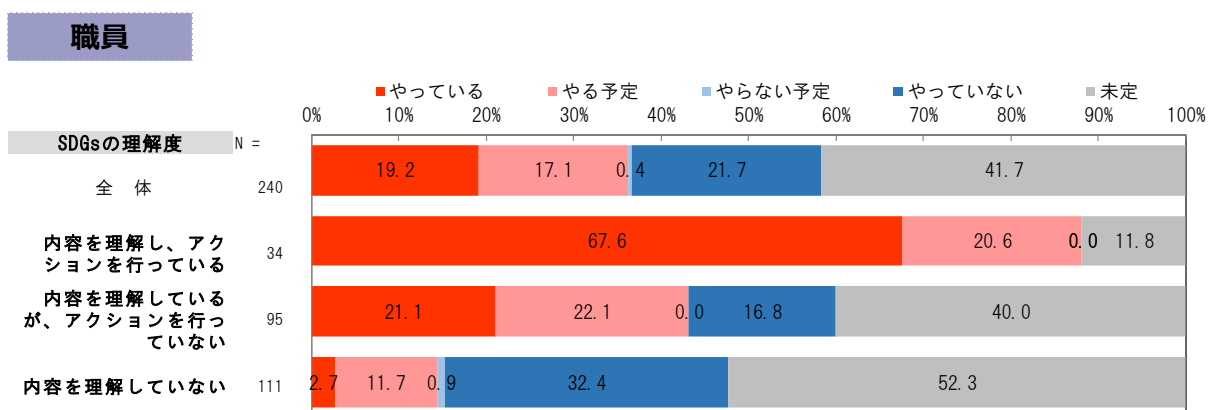


図8 職員・業務/日常の取組状況×SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

●設問：SDGsの理解度×SDGsの目標に合わせた自身の取組みの紐づけ

教員では、「内容を理解し、アクションを行っている」の約8割が自身の取組みと紐づけていると回答であり、「内容を理解していない」の約7割は、今後の取組みは「未定」の回答です。

職員も「内容を理解し、アクションを行っている」の5割が自身の取組みと紐づけて実践しています。「内容を理解していない」の約8割が自身の取組みと紐づけた実践ができていないことが伺えます。

学内や日常生活においてSDGsの掲げているゴールとターゲットの多くに関わりがあります。実践的なワークショップなどの方策を講じることで、自身の生活と紐づいているという発見があると思われます。

教員

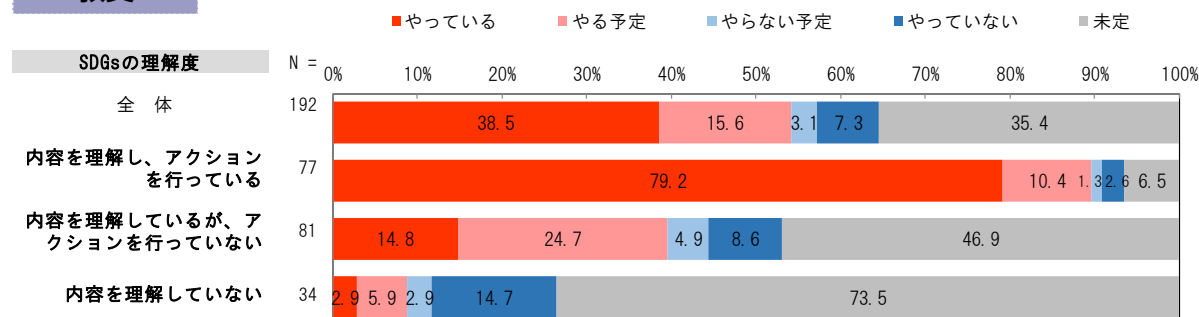


図9 教員・SDGsの目標に合わせた自身の取組×SDGs（持続可能な開発目標）の理解度

職員

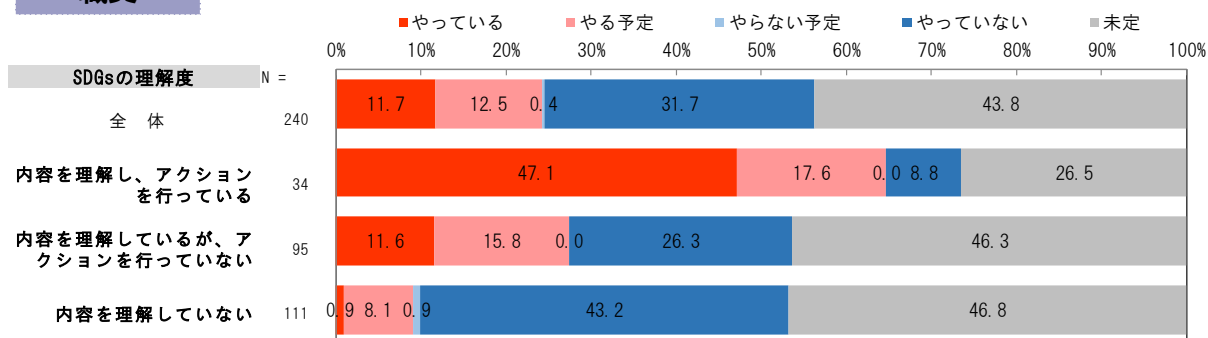


図10 職員・SDGsの目標に合わせた自身の取組×SDGs（持続可能な開発目標）の理解度



# 課題解決の取組み

教員・職員

## 取組みは重要だが、日々の生活の優先度の方が高い

### ● 設問：SDGs の印象について

教員・職員共に「取組みは重要と考えるが、日々の生活に比べると、優先度は下がる」が最も高くなっています。

SDGs を理解していることで、SDGs が日々の生活の中の取組みとの繋がりが分かることもあります。

今一度、SDGs の方針である「誰一人置き去りにしない」ことが日常生活の事柄と関連しやすいことを確認できる機会を作る必要があると思われます。

- そもそも知らない
- 自分にはあまり関係がない
- 取組みは重要と考えるが、日々の生活に比べると、優先度は下がる
- 目新しさはなく、すでに自分で取り組んでいるものである
- 取り組むことで周りから褒められる等、自らのブランディングでのメリットが期待される
- その他

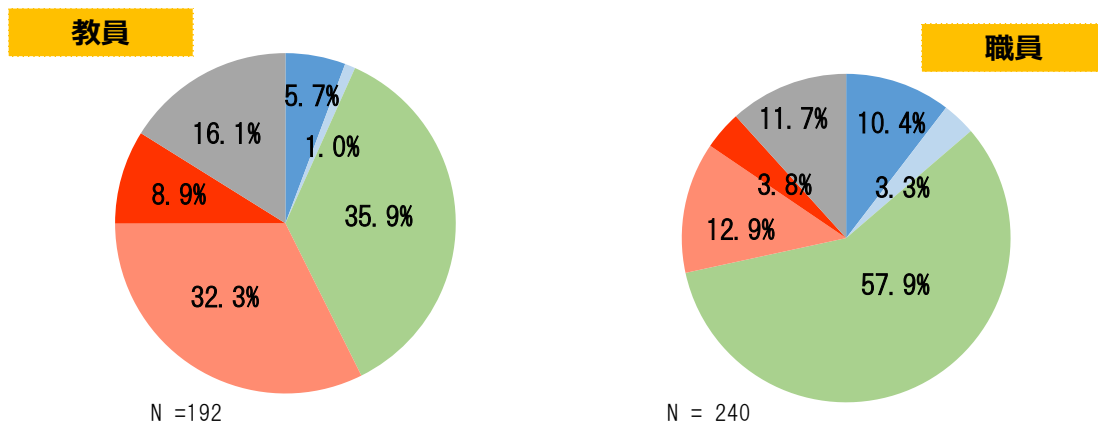


図11 SDGs（持続可能な開発目標）の印象

### ●設問：SDGsを知った経緯について

SDGsの知るに至った経緯については、「教員」、「職員」とともに「テレビ、インターネット、新聞、雑誌などのメディア」が6割以上となっています。

2015年9月の国連サミットでSDGsが採択されて以降、日本でも日本版SDGsとして2016年12月に「SDGs実施指針」が決定され、日本の「SDGsのモデル」の確立に向けた取組みが進められています。

国、地方公共団体及び企業など多様なステークホルダーと連携した取組みがメディアで取り上げられるようになりました。また、学習指導要領に持続可能な開発のための教育（ESD）の理念が盛り込まれるなど、SDGsの取組みは広がりを見せています。

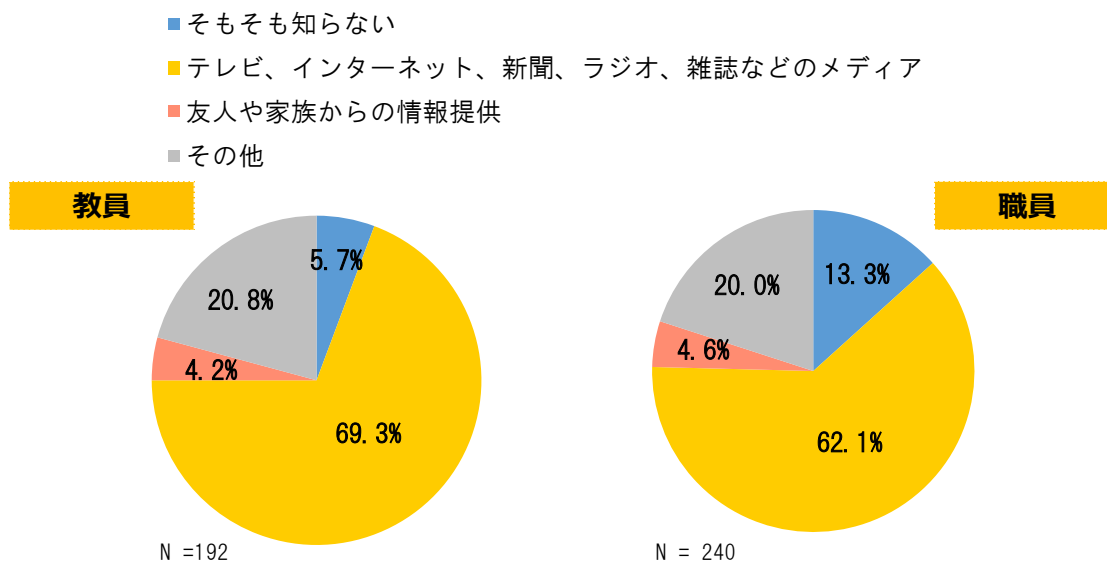


図12 SDGs（持続可能な開発目標）を知った経緯

### ●設問：SDGsの理解のための情報収集・学習について

SDGsの理解のための情報収集や学習の取組状況については、「教員」の43.2%に対して、「職員」の18.8%が取り組んでいると回答しています。

教員は、授業や研究等で様々な場面でSDGsに触れる機会が多くあることが想定されます。

一方、職員は、SDGsについて考えることや活動する機会が業務上あまり求められていないと意識していることが想定されます。職員については、日常の業務にSDGsを紐づけるような取組みを行うことで、SDGs意識の向上に繋がると考えられます。

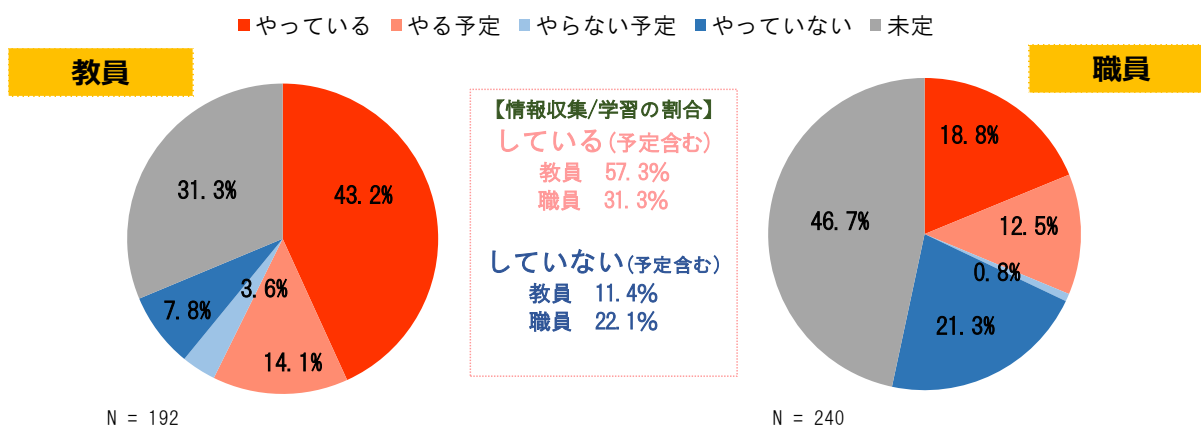


図13 SDGs（持続可能な開発目標）の理解のための情報収集・学習

### ●設問：業務または日常生活を通じた社会課題解決の取組み

社会課題解決の取組みは、「教員」の約 5 割が実践しているとの回答に対して、「職員」は約 2 割と大きな開きがあります。学内での役割の違いが関連していると想定されますが、社会課題解決は、自身の生活とかけ離れた事柄ではないことを、職員を中心に丁寧に伝えていく必要があると思われます。

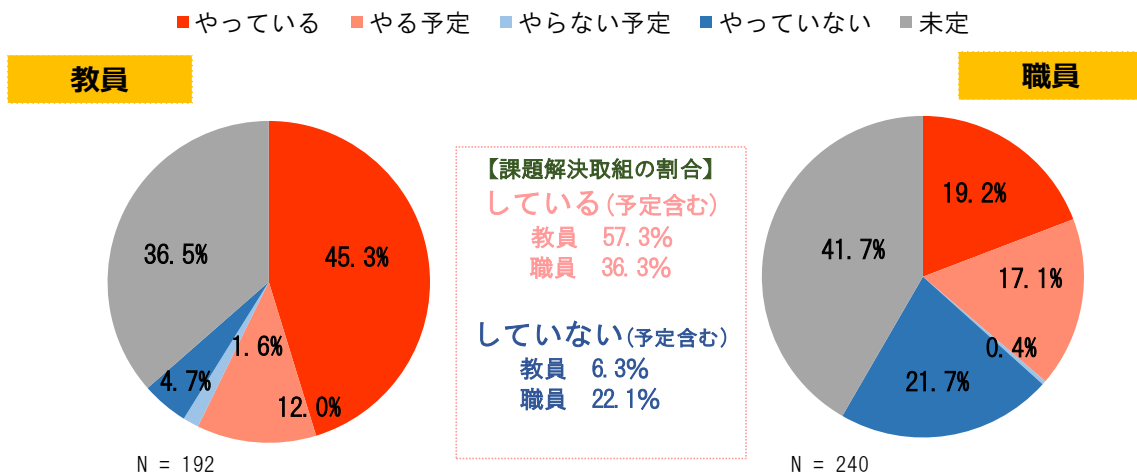


図14 業務または日常生活を通じた社会課題解決の取組

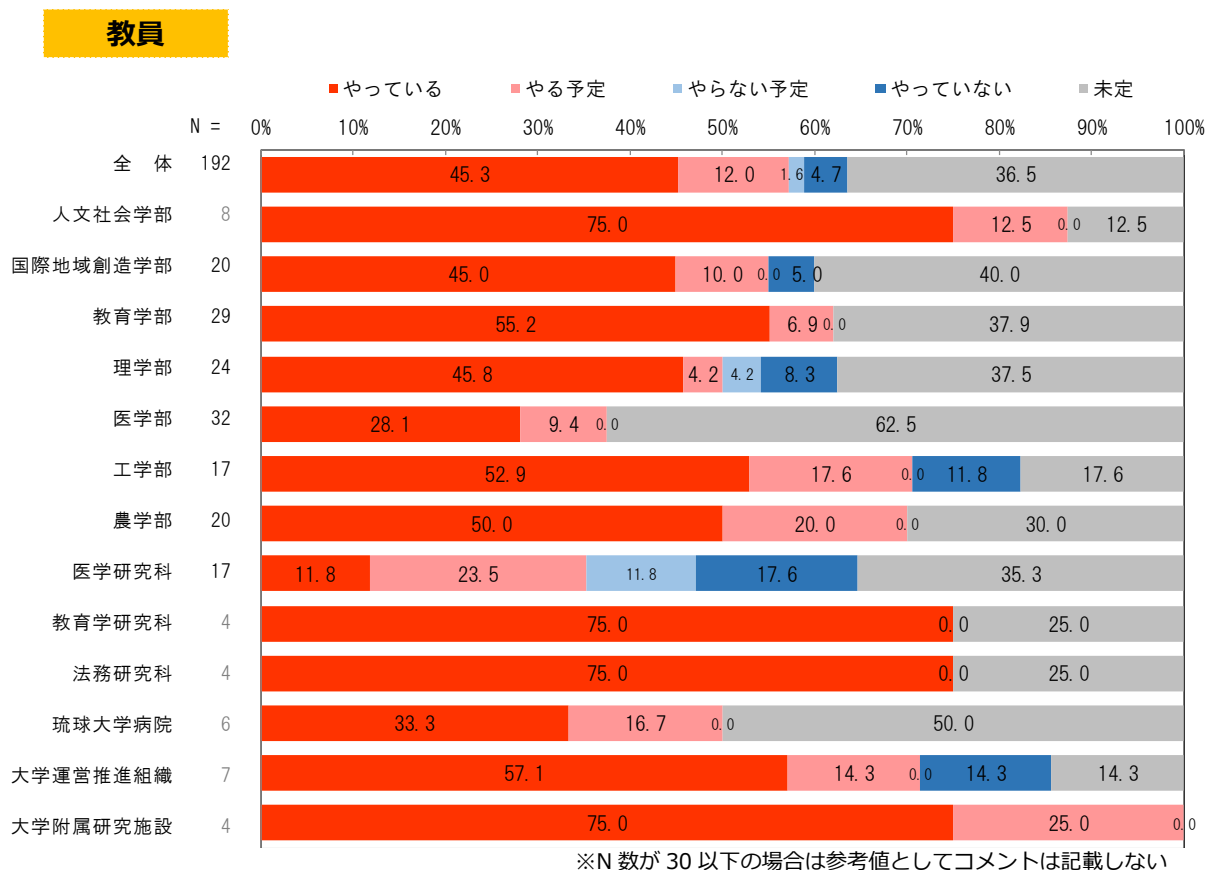
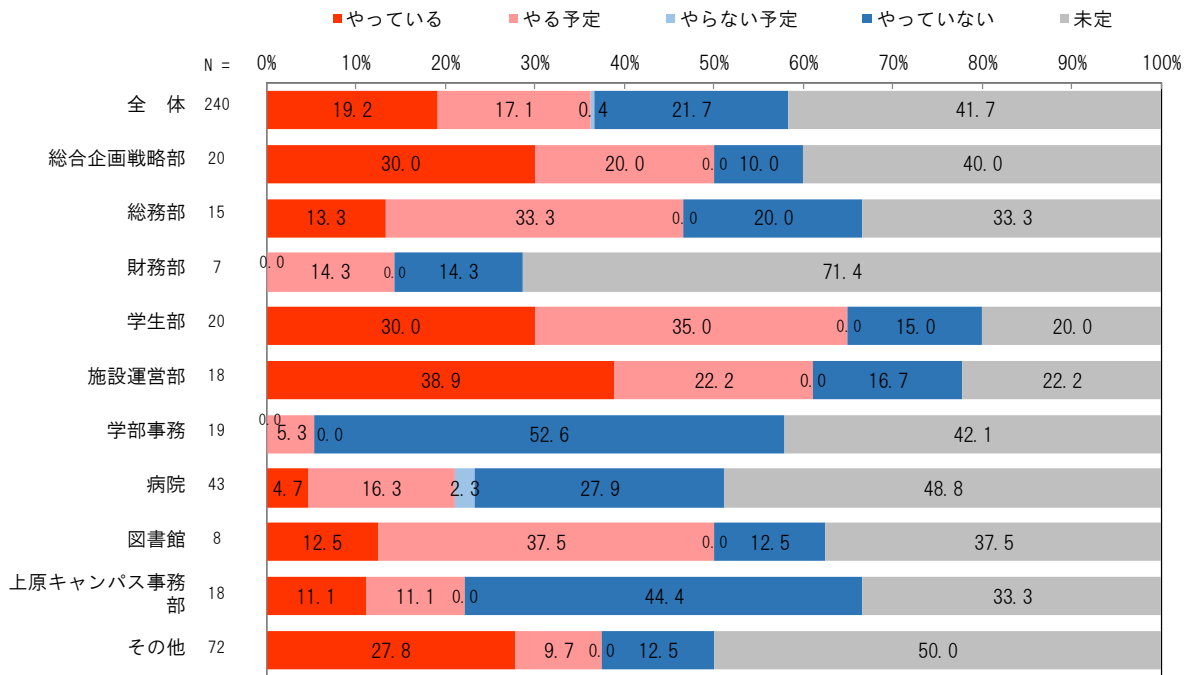


図15 教員・所属別業務または日常生活を通じた社会課題解決の取組

# 職員



※N数が30以下の場合は参考値としてコメントは記載しない

図16 職員・所属別業務または日常生活を通じた社会課題解決の取組

● 設問：SDGsのゴールに合わせた自身の取組みの紐づけ

自身の取組みの紐づけについては、「教員」で「実践している」が約4割、「職員」が約1割となっており、「実践していない」は、「職員」が3割と高く、職員各々の業務との紐づけができていないことが想定されます。

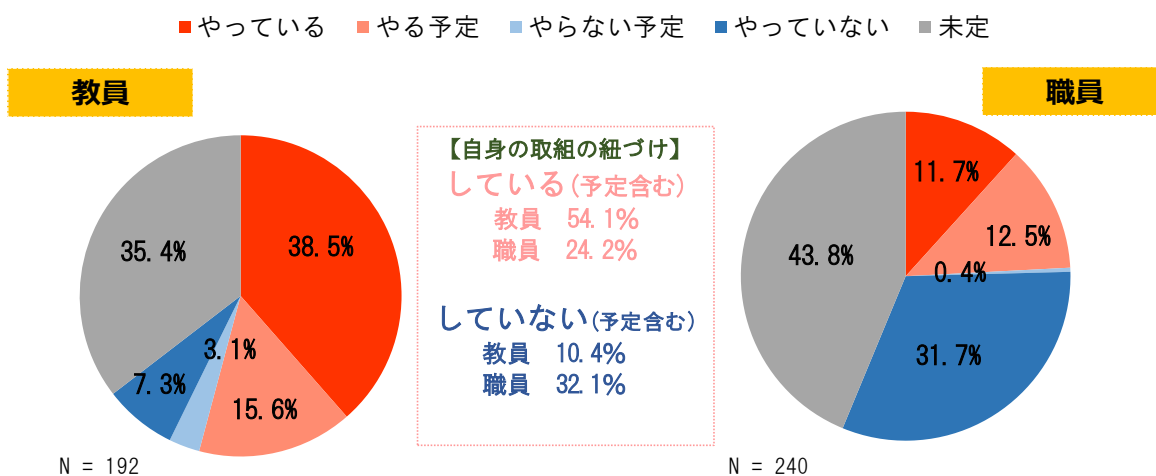


図17 SDGsのゴールに合わせた自身の取組みの紐づけ

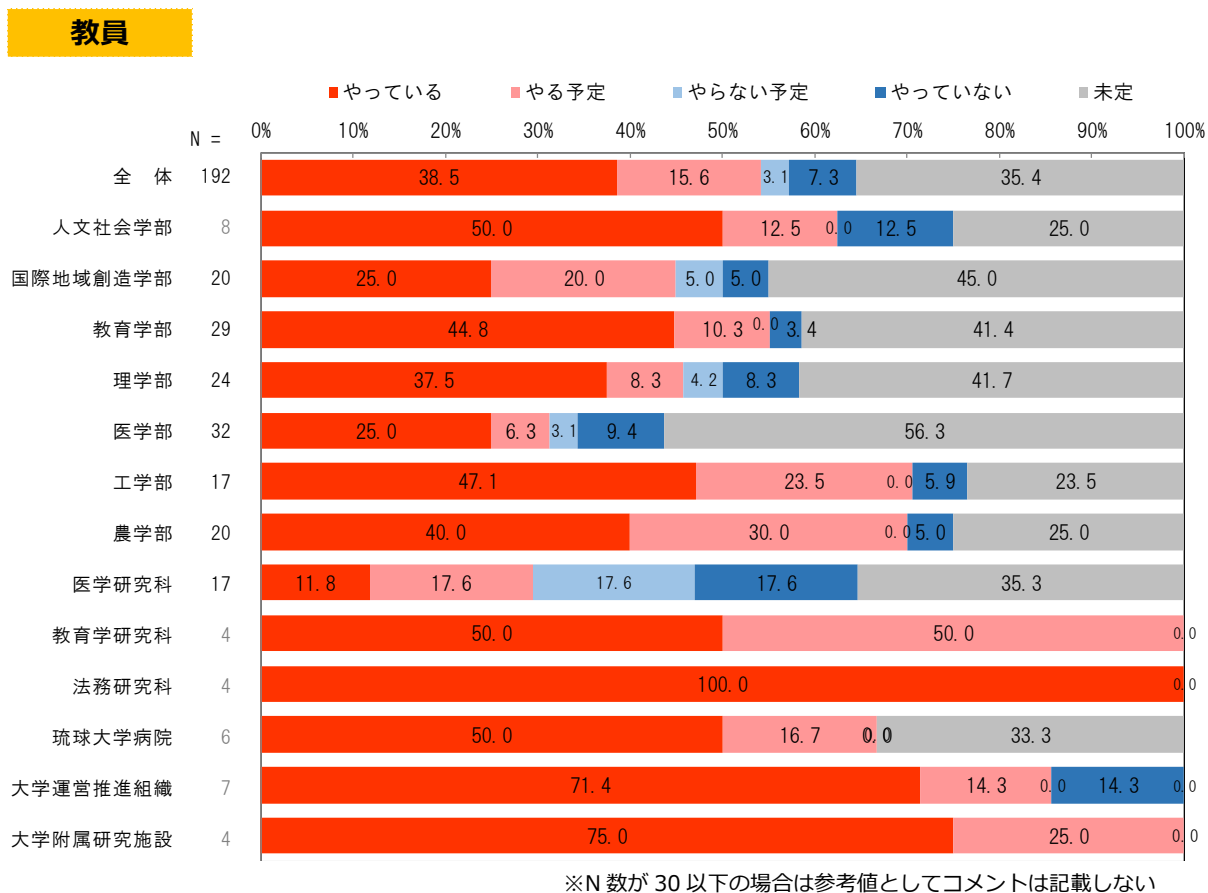
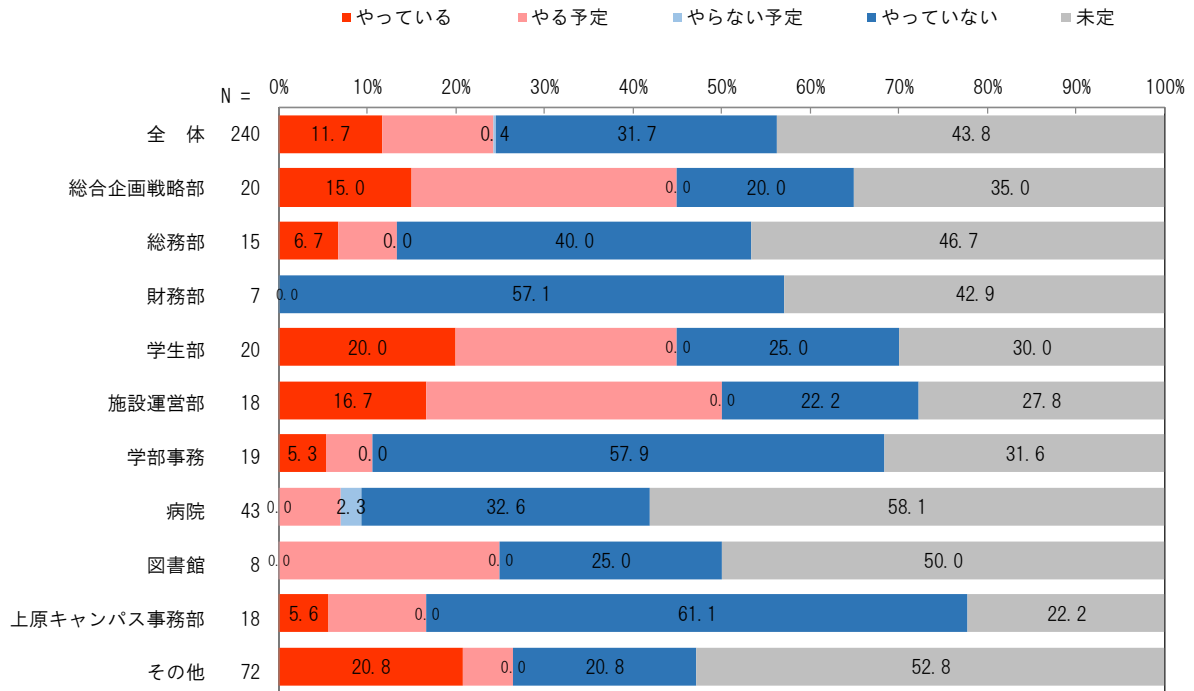


図18 教員・所属別 SDGsのゴールに合わせた自身の取組みの紐づけ

## 職員



※N数が30以下の場合は参考値としてコメントは記載しない

図19 職員・所属別 SDGs のゴールに合わせた自身の取組みの紐づけ

### ●設問：同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わす

同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わすことについて、「教員」は「実践している」が約 4 割、「職員」は約 2 割となっている一方、「職員」の「実践していない」が 5 割強と高くなっています。

教員と職員の役割が異なるため、SDGs への関心の性質が異なることが想定されます。学内だけの課題に留まらず、学内でも水を大切にす、病院では薬の持ち帰りにエコバックの利用を勧めるなど、島嶼地域の持続可能な環境への配慮など、小さなことから実施できることを、身近な教職員間で話し合う機会を設定することが重要と思われます。

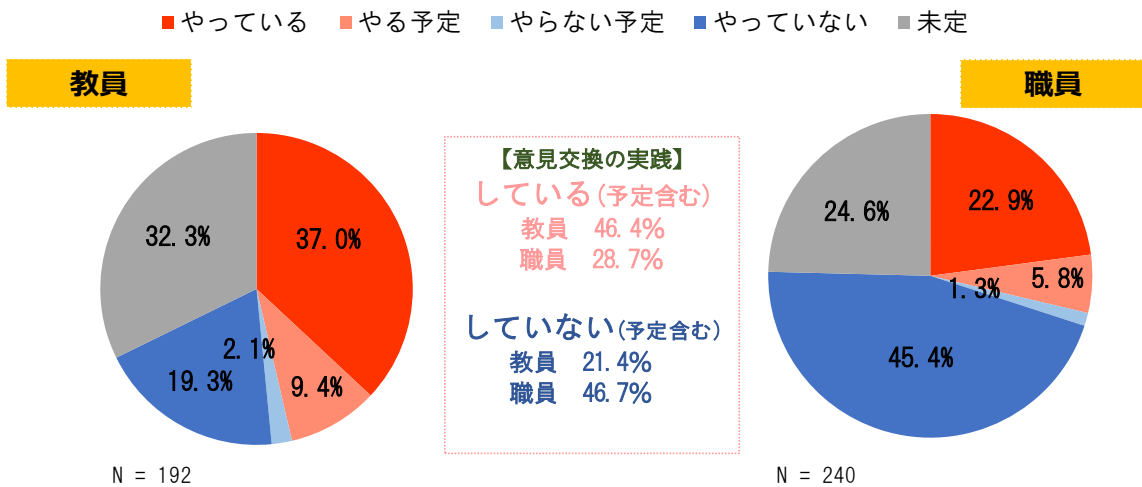


図20 同僚、家族や友人などと SDGs について意見を交わす

# 重点的に取り組むべき目標

教員・職員

## 「④質の高い教育をみんなに」「③すべての人に健康と福祉を」が上位

### ●設問：SDGsの17目標で特に重要であると思う目標

「④質の高い教育をみんなに」、「③すべての人に健康と福祉を」、「①貧困をなくそう」及び「⑩パートナーシップで目標を達成しよう」が教職員共に重要と思う上位を占めました。特徴としては「②飢餓をゼロに」、「⑧働きがいも経済成長も」について、職員が教員より高い割合で重要さを示しています。

学内での教職員の連携、学外の多様なステークホルダーとの連携が、SDGsの理解度や実践度の高めるには重要であると思われます。

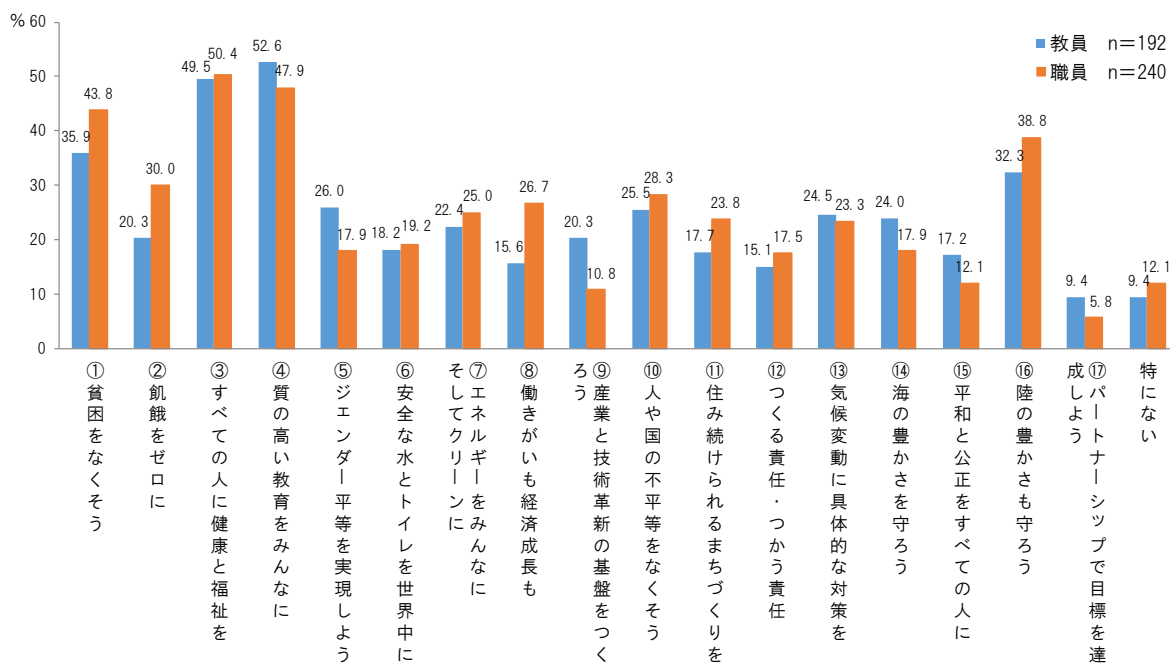


図21 SDGsの17目標で特に重要であると思う目標

●設問：SDGsの17目標で内容について深く調べてみたい目標（複数回答）

教員については、「④質の高い教育をみんなに」、「③すべての人に健康と福祉を」、「⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「⑤ジェンダー平等を実現しよう」が職員より関心が高く、職員については、「⑧働きがいも経済成長も」、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」が教員と比較して関心が高くなっています。

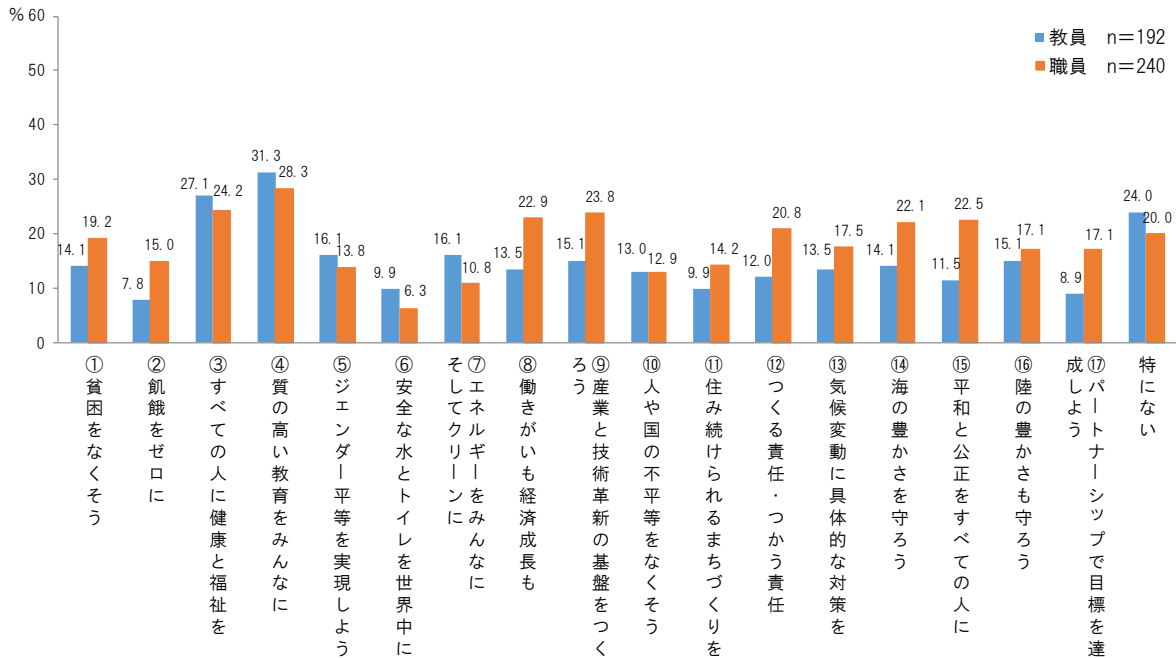


図22 SDGsの17目標で内容について深く調べてみたい目標



●設問：SDGsの17目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標（複数回答）

教員・職員ともに、「④質の高い教育をみんなに」が最も高い割合になっています。

教員については、「⑭海の豊かさを守ろう」が約4割、次いで「⑤ジェンダー平等を実現しよう」が3割弱と続きます。

職員については、「⑩人や国の不平等をなくそう」が4割、次いで「③すべての人に健康と福祉を」、「⑤ジェンダー平等を実現しよう」が4割前後と続きます。「⑧働きがいも経済成長も」は教員が20.8%に対して、職員が30.4%と9.6ポイントの開きがあり、教員と職員で認識が異なっています。

一方、亜熱帯の島嶼に位置する本学の特長となる「⑭海の豊かさを守ろう」が教員では45.3%に対して職員は29.6%と15.7ポイントの開きがあり、「⑬気候変動に具体的な対策を」が教員・職員ともに約2割と相対的に低い結果となりました。

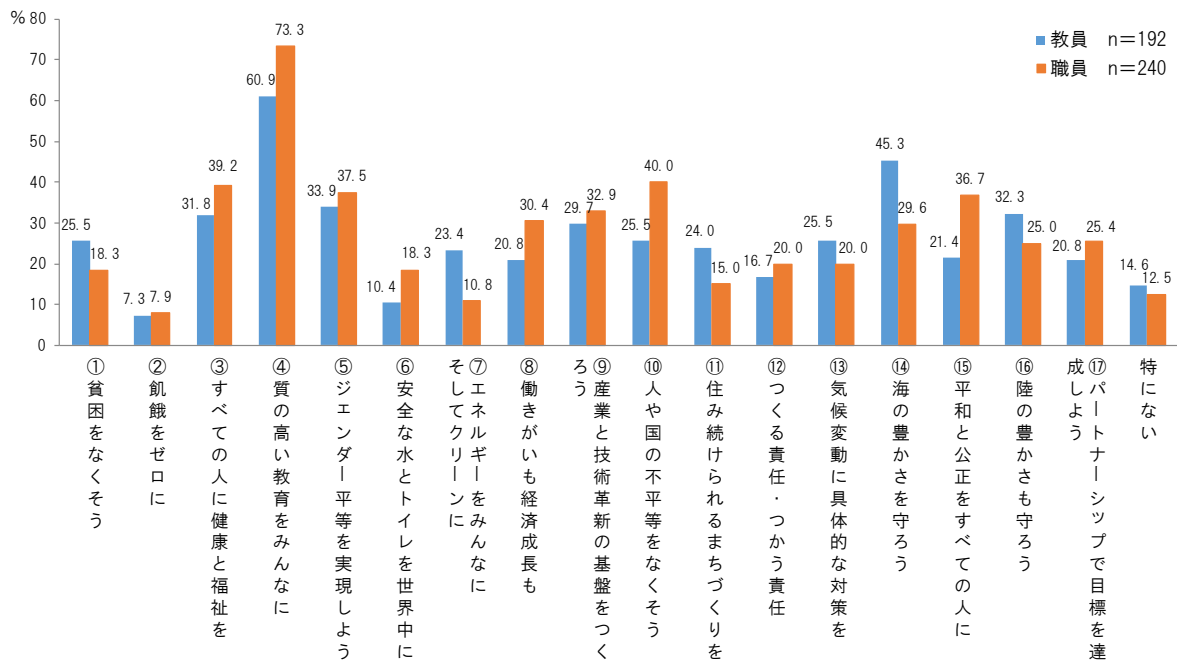


図23 SDGsの17目標で琉球大学が特に取り組むべきだと思う目標

●設問：琉球大学 SDGs 推進室の設置によるワーキング活動での重点的な取組目標（複数回答）

教員は、「SDGs 達成に貢献する研究プロジェクトの推進」が 39.1%、職員は、「ホームページや SNS などによる SDGs 広報の推進」が 39.2%で上位となりました。

教員では「子どもの貧困問題」が職員より 16 ポイント高く、解決すべき沖縄の社会課題として認識されていることが伺えます。一方、職員では「琉大 SDGs シンポジウムの開催」が教員より 19 ポイント高く、シンポジウムを通じて SDGs の理解を深めようする傾向が伺えます。

多様なステークホルダーと連携・協働しつつ、地域課題解決に向けた取組みを推進するとともに、シンポジウムやワークショップなどの取組みを通じて継続的に SDGs に対する理解を得ていくことも重要と思われれます。

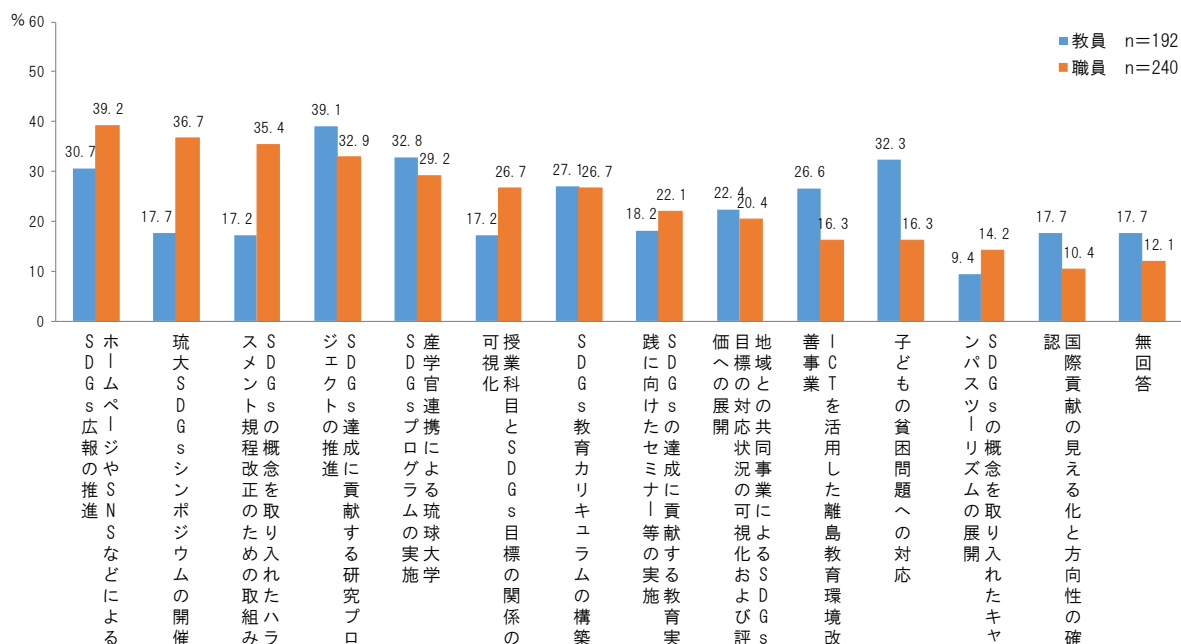


図24 琉球大学 SDGs 推進室の設置によるワーキング活動での重点的な取組目標

# 教員の SDGs との関係

教員

## SDGs に関連する科目提供への関心は 3 割弱と少ない

### ● 設問：SDGs に関連する科目の提供

「はい」との回答は 38.5%、「いいえ」は 61.5%で、「いいえ」が高い結果となりました。「はい」と回答した 74 件をみると、科目分類として「学部専門科目」が 56.7%と最も高く、履修区分としては「選択」科目が 56.7%と過半数を占めました。

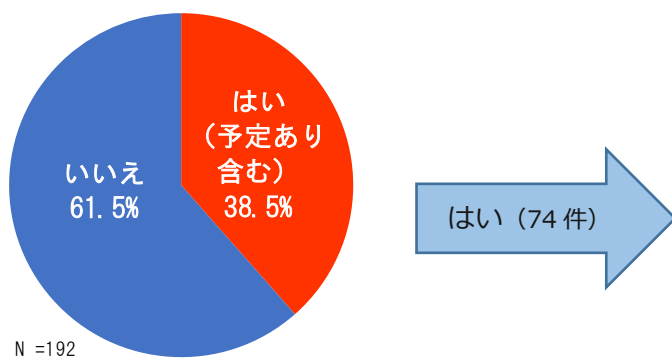


図25 SDGs に関連する科目の提供

※注：複数の履修科目を選択したデータは反映していない。  
最低 1 科目を提供した n 数で作表を行っている。

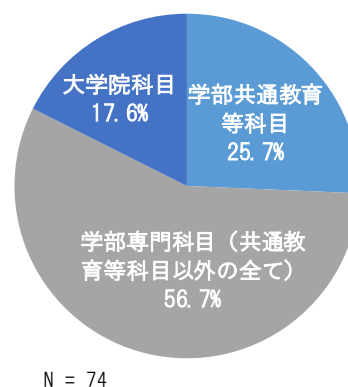


図26 SDGs 関連科目の【科目分類】

### ● 設問：SDGs 目標との関連性

履修科目と SDGs との関連については、「③すべての人に健康と福祉を」が 31.1%、次いで「⑮陸の豊かさを守ろう」が 28.4%、「⑭海の豊かさを守ろう」が 24.3%と続きます。

所属によって提供する履修科目内容は異なりますが、17 の全ての目標について関連性がある回答となっています。

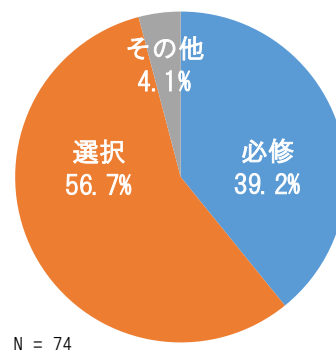


図27 SDGs 関連科目の履修区分

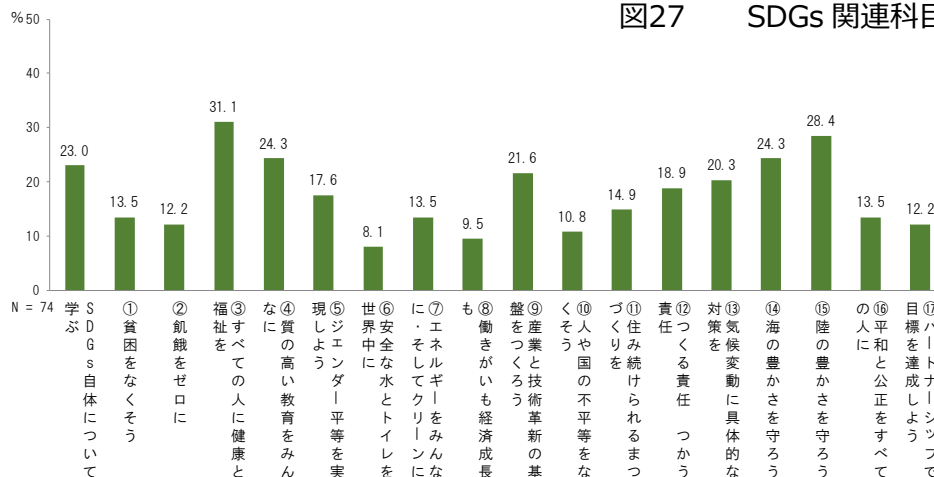


図28 SDGs 目標との関連性

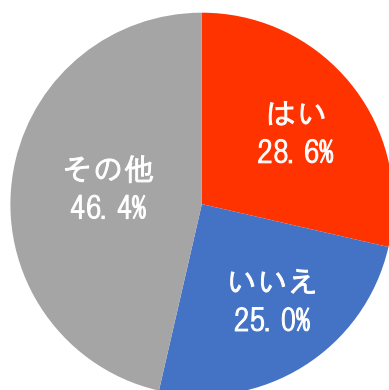
● 設問：SDGs に関連する科目の提供の関心

関心の有無について、「はい」が 28.6%、「いいえ」が 25.0%となりました。

「その他」の 46.4%が最も高くなりました。その他を選んだ理由として、“SDGs との関連付けがわからない”、“担当科目に取り入れるのが難しい”、“SDGs を意識して取り組む余裕がない”など、関心があってもなかなか科目提供まで踏み込めない状況があると思われます。

一方、SDGs は 17 項目のゴールの下に 169 のターゲットがあるため、既にいずれかのターゲットとの関連付けができる科目を提供していることも十分考えられます。

シラバス作成時に、当該科目と SDGs の関連付けを行い、SDGs のアイコンなど付す支援を行うなど、方策の検討が望まれます。



N = 192

図29 SDGs に関連する科目提供の関心

	n	SDGsに関連する科目の提供の関心		
		はい	いいえ	その他
全体	192	28.6	25.0	46.4
人文社会学部	8	37.5	50.0	12.5
国際地域創造学部	20	25.0	15.0	60.0
教育学部	29	34.5	17.2	48.3
理学部	24	16.7	33.3	50.0
医学部	32	40.6	34.4	25.0
工学部	17	29.4	11.8	58.8
農学部	20	15.0	15.0	70.0
医学研究科	17	41.2	35.3	23.5
教育学研究科	4	-	25.0	75.0
法務研究科	4	-	25.0	75.0
琉球大学病院	6	33.3	16.7	50.0
大学運営推進組織	7	14.3	42.9	42.9
大学附属研究施設	4	50.0	-	50.0

表1 所属別 SDGs に関連する科目提供の関心

●設問：研究テーマが関連しているSDGsゴール

SDGs の「③すべての人に健康と福祉を」、「④質の高い教育をみんなに」、「⑤ジェンダー平等を実現しよう」及び「⑩人や国の不平等をなくそう」と関連する研究テーマの割合が高くなっています。

	n	研究テーマが関連しているSDGsゴール (%)							
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も
全体	134	14.2	11.9	46.3	35.1	22.4	16.4	12.7	14.2
人文社会学部	7	-	-	28.6	42.9	14.3	-	-	-
国際地域創造学部	15	20.0	13.3	46.7	26.7	33.3	13.3	20.0	33.3
教育学部	21	28.6	14.3	19.0	76.2	33.3	28.6	23.8	19.0
理学部	13	-	7.7	23.1	23.1	7.7	23.1	15.4	-
医学部	16	12.5	6.3	93.8	12.5	25.0	31.3	-	6.3
工学部	14	14.3	7.1	35.7	28.6	14.3	7.1	28.6	-
農学部	18	5.6	33.3	44.4	16.7	-	16.7	5.6	16.7
医学研究科	8	-	-	100.0	12.5	12.5	-	-	-
教育学研究科	4	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0
法務研究科	4	25.0	-	25.0	50.0	50.0	-	-	25.0
琉球大学病院	5	20.0	-	80.0	40.0	80.0	-	-	40.0
大学運営推進組織	5	20.0	20.0	40.0	80.0	40.0	20.0	20.0	40.0
大学附属研究施設	4	25.0	-	50.0	25.0	-	-	-	-

	n	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任・つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和と公正をすべての人に	17. パートナーシップで目標を達成しよう
		全体	134	21.6	21.6	17.2	14.2	17.9	20.1	16.4
人文社会学部	7	-	57.1	-	-	-	-	-	57.1	-
国際地域創造学部	15	33.3	33.3	26.7	20.0	20.0	13.3	13.3	40.0	13.3
教育学部	21	23.8	28.6	23.8	28.6	14.3	33.3	28.6	28.6	14.3
理学部	13	15.4	7.7	30.8	15.4	46.2	46.2	7.7	-	7.7
医学部	16	6.3	6.3	6.3	-	12.5	12.5	6.3	-	12.5
工学部	14	35.7	21.4	28.6	21.4	14.3	14.3	-	14.3	7.1
農学部	18	38.9	5.6	5.6	5.6	22.2	16.7	44.4	-	-
医学研究科	8	12.5	-	-	12.5	-	12.5	-	12.5	-
教育学研究科	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	50.0
法務研究科	4	-	50.0	25.0	-	-	-	-	50.0	-
琉球大学病院	5	-	40.0	-	-	-	-	-	20.0	20.0
大学運営推進組織	5	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0
大学附属研究施設	4	-	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0

表2 研究テーマが関連しているSDGsゴール

● 設問：共同・受託研究テーマが関連しているSDGsゴール

共同・受託研究テーマは56件の回答でした。

SDGsの「③すべての人に健康と福祉を」、「⑨産業と技術革新の基盤をつくろう」及び「⑭海の豊かさを守ろう」と関連する研究テーマの割合が高くなっています。

	n	共同・受託研究テーマが関連しているSDGsゴール (%)							
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も
全体	56	10.7	8.9	39.3	16.1	14.3	14.3	12.5	12.5
人文社会学部	1	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
国際地域創造学部	5	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	40.0	60.0
教育学部	4	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0
理学部	6	-	-	33.3	-	-	16.7	16.7	16.7
医学部	6	16.7	-	83.3	16.7	50.0	33.3	-	16.7
工学部	9	-	-	11.1	11.1	-	-	33.3	-
農学部	13	7.7	23.1	38.5	7.7	-	7.7	-	7.7
医学研究科	3	-	-	100.0	-	-	-	-	-
教育学研究科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
法務研究科	2	50.0	-	50.0	-	50.0	-	-	-
琉球大学病院	2	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-
大学運営推進組織	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-
大学附属研究施設	3	-	-	33.3	-	-	-	-	-

	n	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 人や国の不平等をなくそう	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任・つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和と公正をすべての人に	17. パートナリシップで目標を達成しよう
		全体	56	33.9	8.9	21.4	10.7	19.6	25.0	19.6
人文社会学部	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-
国際地域創造学部	5	60.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0
教育学部	4	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	50.0	75.0	50.0	25.0
理学部	6	16.7	-	33.3	-	33.3	33.3	16.7	-	-
医学部	6	33.3	-	16.7	-	-	16.7	-	-	16.7
工学部	9	55.6	-	22.2	33.3	-	22.2	-	-	11.1
農学部	13	46.2	-	7.7	7.7	46.2	30.8	38.5	-	-
医学研究科	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育学研究科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
法務研究科	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-
琉球大学病院	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学運営推進組織	2	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-
大学附属研究施設	3	-	-	-	-	33.3	33.3	33.3	-	-

表3 共同・受託研究テーマが関連しているSDGsゴール

### ●設問：研究者データベースのSDGsアイコン設定の意向

研究者データベースのSDGsアイコン設定については、「既に反映している」が13.0%と低い状況となっています。社会的にSDGsへの関心が高まる中、学内外のステークホルダーとの連携・協働を推進するためにも、設定率の向上させる方策を考えていく必要があります。

本学でSDGsを推進していくために、アイコン設定の目的を明確化し「どちらとも言えない」回答者が納得の上、反映してもらうことが重要です。

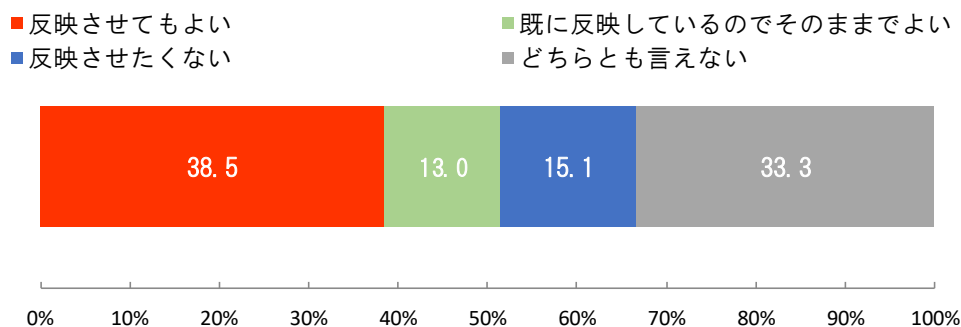


図30 研究者データベースのSDGsアイコン設定の意向

### ●設問：SDGs達成に貢献する研究テーマへの支援制度の利用意向

支援制度の意向については、「利用したい」が36.5%であるが、「どちらとも言えない」が58.9%を占めています。

支援制度の内容や活用方法について丁寧に説明することで、利用したいと思う研究者が多くなると思われます。

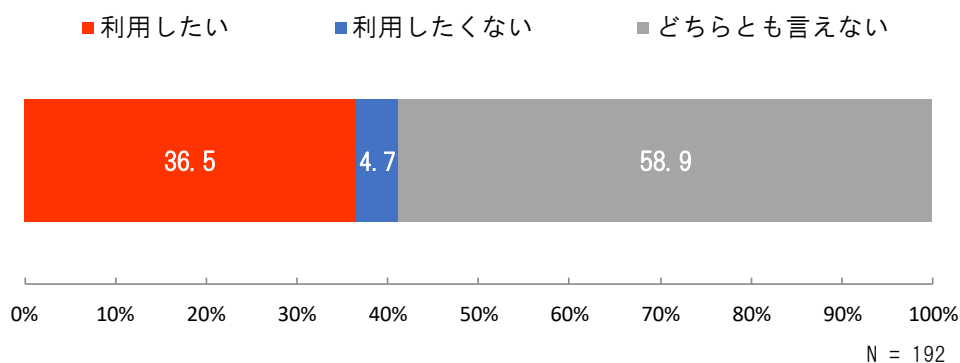


図31 SDGs達成に貢献する研究テーマへの支援制度の利用意向

# 今後の SDGs の取組みに関する意見

教員・職員

- アンケートの最後に、本学の SDGs に関する今後の取組みについてご意見を頂きました。忌憚のない意見を頂きましたが、全てを掲載することは紙面の制約につき、抜粋して紹介します。

## 教員



### すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

#### ● 主な意見

- ・共通教育で SDGs の講座を設けるなどを検討する。
- ・県内大学として、学生だけでなく、中高生や一般の県民を対象にした啓発教育の機会の提供
- ・独自の課題を意識し、カスタマイズされた「オリジナル SDGs」を作る目標にしてほしい。
- ・教員の業績を SDGs の諸目標と紐づけることを可能にし、整理しアーカイブ化（データベース化）することが大事
- ・SDGs の取組みは、目先の機関評価や数値目標にこだわらず、日常活動の一部として持続的に取組みを進める。
- ・複数の目標が連鎖する「SDGs ドミノ」ができるようなプログラムの取組み



### ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

#### ● 主な意見

- ・日本は世界的に見てセクシャル・マイノリティの権利が守られていないため、セクシャリティに関する取組みをしてほしい。
- ・教職員並びに学生に対して LGBT 研修をしてほしい。



### 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

#### ● 主な意見

- ・学食で提供される食事にも、SDGs がどのように関連しているのかを示していく。
- ・紙ベースでのやり取り（見積もり、請求、納品などを全て紙ベースでのやり取りや紙媒体での保管の見直しなど）のオンライン化、電子媒体や電子押印の取り入れることで資源の無駄遣いを見直す。
- ・Word/Excel 管理しようとせず DB 管理し過去の蓄積を踏まえて判断を下すことができる体制を整える。
- ・再生可能エネルギーを 100%使った大学運営を目指してほしい。
- ・キャンパス内の交通問題を解決するためのモデル地区を構築する。





## 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

### ● 主な意見

- ・国際共同研究を行う海外の相手国を増やすことも可能だと思う。その枠が大きくなっていくと、琉球大学にこれまであった産学連携の研究だけでなく、新しい研究分野が構築できる
- ・沖縄県がかかえる諸問題（貧困・教育・産業・エネルギーなど）に、琉球大学が社会と共に積極的に関わる雰囲気作り

## 職員



## すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

### ● 主な意見

- ・県内の教育水準の低さが貧困等諸問題に繋がっていると考えているため、オープンキャンパス以外にも小中高生が学問に興味を持てるような機会を提供する。
- ・学は財産になるので、本土と比べて貧困層の多さが目立つ沖縄での取り組みを期待する。
- ・学生には授業のシラバスに SDGs の項目（アイコン）を設けると意識しやすい。



## 持続可能な消費と生産のパターンを確保する

### ● 主な意見

- ・ペーパーレス化の推進、共用機器等の活用による廃棄物品の削減、沖縄の海を守る活動への参画



## すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

### ● 主な意見

- ・職員一人ひとりが主体的にやりがいを持って仕事に取り組むこと（そしてその職場環境を構築すること）が、本学の魅力向上のために必要だと思う。
- ・非常勤（事務補佐）の待遇改善に取り組む。
- ・理系基礎研究や今働いている職員へ注力してほしい。
- ・研究環境、学生の学ぶ環境が最大限「豊か」になる取り組みが最優先課題だと思う。その意図と合致するものから進めてほしい。
- ・産業と技術革新の基盤になるような研究のための施設整備への資金再分配が求められている。

## 大学への要望等

### ● 主な意見

- SDGs の対象となる具体的な範囲の設定、SDGs と現在大学やその構成員が実施していることとの関係性の明確化が最初に必要な
- SDGs に関する理念や県内の具体的取組の紹介
- SDGs 推進室が出来たことに期待したい。
- 琉球大学でも既に SDGs に関わるような取り組みは多く行われてきたと思うので、それをどう結びつけて発展させていくかが鍵になると考える。
- SDGs を前面に出されると「SDGs は、あまり自分には関係ないな」というように遠くのものに感じる。
- 誰もが取組みに参加しやすい、開かれたものでなくてはならないので、PR していくことが重要
- 琉球大学が独自の課題で SDGs に重きを置くべき理由等を説明すれば、取り組む側の意欲もわくと思う  
達成するメリット、具体的手順が明確で、目標の数も少ない方が実践しやすい。
- 本学の取り組むべき目標を 17 の内から選定し、その目標に関する勉強会等を開催することで、もっと職員の理解が広がるかと思う。
- 意識している職員と全く知識の無い職員の差が大きくなるため、全教職員への e-Learning を必須にして、意識の底上げをはかる。
- 現業務は SDGs とは別に確立された業務なので紐づけするには個人で取り組めるのか疑問でありその方法がよくわからない。
- 一部の人だけではなく全学的な SDGs 取組みにしてほしい。

## ま と め

持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）は、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択されました。世界一丸となって、「誰一人取り残さない」の方針のもとに、17目標と169ターゲットを設定しています。

SDGsへの貢献は発展途上国だけではなく、先進国にも取り組みが求められており、私たちの日頃の行動の蓄積が地球規模の課題の解決に繋げるためにも、本学教職員のSDGsに対する理解や当事者意識をどのように醸成していくのが問われることになります。アンケート調査結果から分かるように、SDGsという言葉では理解していても実際の行動には至っていない状況があります。

いかにして教職員がSDGsへの当事者意識を持ち、自分ごととして捉えてもらえるのか、学内コミュニケーションの活性化が求められます。

教員と職員では、学内での役割分担が異なることによる相違点も明らかになりましたが、双方が互いの特性を生かして協働できることを模索していく必要があり、シンポジウムやワークショップなどを通じた学内コミュニケーションにより、SDGsへの理解を深め、連携・協働して取り組む「具体」の設定が今後重要になります。

また、本学が位置する沖縄県は、本土とは異なる気候、文化・歴史を有しており、アジア諸国と地理的にも近いという特性があり、「琉球大学独自のSDGsモデル」を構築しやすい環境があるといえるでしょう。

本学に対するSDGs達成に向けた貢献への社会的期待は日ごとに高まってきており、大学経営的にもSDGsによる新たな機会を創出するという点に対応するため、令和2年2月に「SDGs推進室」を設置し、同推進室のもとに置かれる「教育」、「研究」、「社会貢献」及び「業務・ガバナンス」の4つのWGを中心にSDGs達成に向けた取り組みを展開しています。

今後もアンケート調査を継続的に実施することにより、教職員の当事者意識の変化をモニタリングし、本学のSDGs活動の改善に向けたPDCAサイクルを回転させることにより、第4中期目標・中期計画に掲げる組織内及び組織間の連携・協働によるSDGsの推進に取り組んでいきます。



琉球大学 SDGs に関する教職員アンケート調査結果報告書

令和4年3月

発行：琉球大学 SDGs 推進室

所在地：〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地

電話：098-895-8024 (ダイヤル)

FAX：098-895-8185

ウェブサイト：<https://sdgs.skr.u-ryukyu.ac.jp/>